

ベニバナヤマシャクヤク ボタン科
Paeonia obovata Maxim.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取県内 2010.6.20/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での自生地は1カ所のみ、生育本数もごく少数。初版時には野生絶滅とされたが、2010年に新たな自生地を確認した。

■**特徴**：山地の明るい林内に生育するやや大型の多年生草本。ヤマシャクヤクに類似するが、花弁が淡紅色、柱頭は伸長し旋曲する点で異なる。花柱の数と葉の裏面軟毛の有無は、個体によって異なる。高さは60-70 cm。花期は6月中旬。園芸目的の採取圧が非常に強く、現状では自生地が知られると絶滅の可能性が非常に高い。

■**分布** 県内：非公開。 県外：北海道、本州、四国、九州。北東アジア。

■**保護上の留意点**：自生地森林の伐採など急激な環境変化防止。園芸用採取の厳重な防止。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

ハマヒサカキ ツバキ科
Eurya emarginata (Thunb.) Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山町 2010.11.22/撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：分布北限で生育環境が不安定。植栽木に圧迫の個体群もある。

■**特徴**：海岸に生育する暖帯性の常緑低木-小高木。雌雄異株。根際近くで多数分枝する。葉は互生し水平状2列に密生する。長さ2-4 cm、倒卵形で先端は円形か凹形、基部はくさび型、縁に鈍い鋸歯があり裏側に巻き込む。上面は光沢があり下面は白色を帯びる。花は10-11月、白色で葉腋に1-4個束生し5弁。雄花は径約5 mm、広釣鐘状、雄しべ15-30本と退化した雌しべからなる。雌花はやや小さく、花柱3裂。液果は球形で黒く熟す。道路や公園での植栽利用が多いが、耐乾性はそれほど高くない。

■**分布** 県内：鳥取市、琴浦町、大山町。 県外：本州（中部以南の太平洋側）・四国・九州・沖縄。

■**保護上の留意点**：道路植栽としてなじみ深いですが、地域住民に自生種の存在を周知し、草刈り、沿道の整備時の配慮が必要。

■**文献**：12,83.

執筆：浜田幸夫（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

ダイセンオトギリ オトリギリソウ科
Hypericum asahinae Makino

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



大山 2005.7.16/撮影：鷺見寛幸

■**選定理由**：大山が基準産地で、鳥取県が分布の西限である。

■**特徴**：高山帯-亜高山帯の草地、岩礫地に生育する多年生草本。高さ約20 cm。葉は対生、卵状楕円形、全縁で茎を抱く。黒点と明点があり、縁辺では黒点のみ。夏、黄色い5弁花をつける。花弁の長さは1 cmほどになり、オトギリソウに比べ大形である。萼片は幅が狭く尖り、花柱の長さは子房の2倍程度ある。風衝地に生育する個体の中には、岩礫の風化とともに崩れ落ちるものもあり、岩礫地の植生保護が必要。

■**分布** 県内：大山。 県外：本州中部以西の日本海側高山（白山、立山、白馬岳）。

■**保護上の留意点**：自生する岩礫地植生の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：75.

執筆：鷺見寛幸

トモエソウ オトギリソウ科

Hypericum ascyron L. var. *ascyron*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2006.7.28/撮影：野津 昭

■**選定理由**：かつては県内各地の山間水湿地に分布したと推測されるが、現在は自生地・個体数ともに激減。溪畔への拡大造林や圃場整備・除草剤使用により、生育環境が悪化したことが想定される。

■**特徴**：日当たりのよい山間の水湿地と周辺に生育する大型の夏緑性多年生草本。茎には4稜があり直立，上部で分枝して1-1.5 mに達する。葉は対生し広披針形，明点があり，やや茎を抱く。特徴的な草姿は春先にも見分けやすい。花期は7-8月，径5 cmに達する黄色い一日花をつける。5個の花弁は鎌状広卵形で“巴”状にねじれる。花柱は5裂，雄しべ多数。

■**分布** 県内：江府町，日南町。県外：北海道，本州。

■**保護上の留意点**：山間地の水湿地環境の保全管理。日南町ではサクラソウ保全のためのスギ・ヒノキ伐採にともない溪畔に出現し，個体数・勢いともに増加傾向。草刈り時の配慮が必要。

■**文献**：—

執筆：野津 昭（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

ミヤマハタザオ アブラナ科

Arabis kamchatica (DC.) K.Shimizu et Kudoh subsp. *kamchatica*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2010.5.28/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では大山山頂部及び中腹の砂礫地にのみ生育する。崩壊が多く，生育状況が不安定。

■**特徴**：日当たりのよい砂礫地や石垣に生育する多年生草本。大山では崩落がやや安定化した砂礫地に生育する先駆的な植物。茎は根元で分枝し，高さ10-20 cm。根出葉は叢生，短い柄があり，倒披針形で頭大羽状深裂，長さ約5 cm。茎葉は互生し，下部の葉は広披針形でわずかな鋸歯があるが，上部の葉は全縁で線形。5-7月，白い花を総状花序につける。花は小形で花弁は4枚。長さ3-4 mm。長角果は線形で斜上し，長さ3-4 cm。類似のシコクハタザオは葉が茎を抱くことから区別できる。

■**分布** 県内：大山町，江府町。県外：北海道，本州，四国（剣山）。

■**保護上の留意点**：大山山頂部の崩壊を抑えるための継続的な自然保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：75.

執筆：松田万由美

コイヌガラシ アブラナ科

Rorippa cantoniensis (Lour.) Ohwi

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



大山町 2006.10.18/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：稲作の機械化にともなう乾田化，用水路のコンクリート化で生育に適した低地の水湿地が減少し，自生地・個体数ともに減少している。

■**特徴**：低湿地や水田に生育する1年生または越年生草本。茎はよく分枝し，高さは40 cmほど。茎の下部の葉は有柄，長楕円形で深裂。上部の葉は無柄で浅-中裂。基部は耳状，茎を抱く。4-5月に黄色い花が葉腋につく。果実は円柱形で上向きにつく。過去に確認された大山町，鳥取市の自生地では2010年見つからなかった。県内水田の草本調査は不十分で，継続調査が必要である。水田には果実のそっくりなスカシタゴボウが多産するが，果実がやや下向きにつくことで区別する。

■**分布** 県内：鳥取市気高町，大山町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：用水路，水田の環境改変に注意。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ミツバベンケイソウ ベンケイソウ科
Hylotelephium verticillatum (L.)H.Ohba

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



三朝町 2002.9.6 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：山間谷間の岩上に生育するが、主に人為的な環境変化により減少傾向にある。

■**特徴**：山地の露岩や溪流沿いの岩上に生育する多年生草本。高さ30–60 cm、葉は厚くて白っぽく3枚輪生、ときに互生。花期は7–9月。花は黄緑白色、花弁5枚で多数つき、茎頂に半球状花序をつくる。雄しべの葯は暗褐色。花茎は冬には基部まで枯れ、毎春根茎の不定芽から地上部が出る。和名は三つ葉のベンケイソウの意味、ベンケイは乾燥に耐える性質を弁慶の強さにたとえたもの。

■**分布** 県内：若桜町、三朝町。県外：北海道、本州、四国、九州。北東アジア。

■**保護上の留意点**：山地の岩場、溪流の岩上およびその周辺の植生の保護。

■**文献**：—

執筆者：井上喜美子

メノマンネングサ ベンケイソウ科
Sedum japonicum Siebold ex Miq. var. *japonicum*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2004.5.15 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内での自生地は限られ、個体数も少ない。自生地周辺の森林成長による日照不足や採取により減少傾向。

■**特徴**：山間の岩場に生える多肉の小型多年生草本。高さ2–10 cmほど。暗紫色の茎の基部は地表をはう。葉は扁平な円柱形で赤みを帯び、長さ1 cmほど。初夏、茎の上部で花茎を放射状に出し、黄色の小花を多数つける。別名コマノツメ。マンネングサは摘み取っても枯れずに生き残るさま、メノは「雌の」の意。

■**分布** 県内：鳥取市・佐治町、八頭町、若桜町、智頭町、三朝町、琴浦町、大山町。県外：本州、四国、九州（海岸や山地の岩場）。

■**保護上の留意点**：自生地周辺の環境維持、保全。

■**文献**：55,66.

執筆者：森本満喜夫

アズマツメクサ ベンケイソウ科
Tillaea aquatica L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市青谷町 2010.5.14 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では現在、青谷町の休耕田1カ所のみを確認。休耕田の植生は変わりやすく、ヨシなど大型草本に覆われると絶滅の可能性が高い。

■**特徴**：日当たりのよい水田や海浜泥地に群生する1年生草本。県内の自生地も日当たりがよく他の草本がない休耕田の泥地。茎は束生し高さ5 cmほど。葉は線状披針形で長さ5 mm内外、鋭頭、多肉質。5–6月に白色の花をつける。花弁は4枚、卵状披針形で円頭、雄しべ4個。萼は卵形で緑色、4裂する。袋果は淡紅色。水田にはミゾハコベがあるが花が6–8月、茎が横走し、葉が広卵形、萼、花弁が3個であることで区別できる。

■**分布** 県内：鳥取市青谷町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の用水路は土で固められており、ヨシが生えメダカが泳いでいる。休耕田も泥質で、このような環境の保全が必要。

■**文献**：—

執筆者：坂田成孝

コウヤミズキ マンサク科

Corylopsis gotoana Makino

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



南部町 2010.3.28/撮影：藤原文子

■**選定理由**：自生地が極めて限定され孤立，個体数も少ない。個体はササの繁茂による圧迫や作業道管理による刈り払いの影響を受けている。

■**特徴**：山地谷沿いの岩場や落葉樹林の粗悪地に生育する落葉低木。高さ約5 m。葉は互生，葉身は広卵形で長さ6–12 cm，幅3–9 cm，やや左右不相称となる。粗い鋸歯縁があり表面は無毛，裏面は粉白色。葉柄や葉脈上に星状毛が散生する。花期は3–4月，葉の展開前に黄色の花が穂状に7–10個つき，長さ3–4 cmの花序が垂れ下がる。花卉5枚，葯は帯紫色で目立つ。果実は直径7–8 mmの蒴果，種子は黒く光沢あり。実生もみられる。

■**分布** 県内：伯耆町，南部町。県外：本州（中部以西），四国，九州。主に太平洋側に分布。

■**保護上の留意点**：庭木用としての採取防止。自然林保護。下草刈り作業等で切らないよう，種の希少性を関係機関に周知する必要がある。

■**文献**：—

執筆：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

アテツマンサク マンサク科

Hamamelis japonica Siebold et Zucc. var. *bitchuensis* (Makino) Ohwi

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



日南町 2010.3.20/撮影：坪倉 敏

■**選定理由**：中国地方に多いマンサクの変種で，県内では日野郡を中心に局所的に分布する。

■**特徴**：中国地方に多く，四国，九州にもみられる落葉小高木。多分枝して伸び広がる。葉は互生，ややゆがんだ菱形状楕円形で三角形の葉先は丸みを帯び，平行葉脈は顕著。葉裏に星状毛があり成葉後も残存することがマンサクとの区別点。3月，葉の展開に先立って開花，黄金色の花をつける。花卉は4枚でリボン状，縮めて開出する。4個の萼片，4個の葯も黄色。大正13年に牧野富太郎博士が岡山県新見市（阿哲地方）で発見，新種のマンサクとして発表した。

■**分布** 県内：大山町，南部町，伯耆町，江府町，日野町，日南町。県外：中国地方，四国，九州。

■**保護上の留意点**：庭木など観賞用としての採取防止と希少性の周知。

■**文献**：93。

執筆：坪倉 敏（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

イワネコノメソウ ユキノシタ科

Chrysosplenium echinus Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



那岐山 2007.4.20/撮影 坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の深山溪谷の自然林下に生える。生育環境が限られ，個体数が少ない。シカ食害も懸念される。

■**特徴**：ブナ帯谷間の適湿地に生える小型の多年生草本。那岐山と氷ノ山の自然植生下，水流のある谷間のやや安定した岩砕地に見られる。花茎は高さ10 cm程度，茎葉は多く対生し扇形か円腎形，基部は切形か広いくさび形，縁に3–5対の内曲する鋸歯がある。花時に根出葉は枯れる。花期は4–5月，淡緑色，雄しべ8個，葯は橙赤色，萼裂片は平開する。花後基部から走出枝を出す。ロゼットはつくらない。自然林伐採による環境変化と大雨による流失が心配される。氷ノ山ではシカの食害による絶滅が懸念される。

■**分布** 県内：若桜町，智頭町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：深山溪谷の自然植生の保護。シカの食害対策。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ツルネコノメソウ ユキノシタ科
Chrysosplenium flagelliferum F.Schmidt

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



東山 2007.6.16 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の深山溪谷の自然林下に生える。分布域は限られ、自生環境は点在するのみで、個体数が少なく、絶滅の危険性が高い。

■**特徴**：落葉樹林下の谷沿いに生える小型の多年生草本。県内では若桜町の深い溪谷で、常に水がしたたる岩場や陰湿なところにマット状に生育する。葉は円形、基部は心形、縁に鋸歯があり互生する。花は5月、黄緑色、根出葉はない。地上性の走出枝があり、花後に長くのびて大きな円い葉をつけた無性芽をつける。生育環境が限られているため、周辺の樹木の伐採、大雨による流失が心配される。植林地などの谷間には見られない。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道、本州、四国。

■**保護上の留意点**：深山溪谷の自然植生の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

チシマネコノメソウ ユキノシタ科
Chrysosplenium kamtschaticum Fisch. ex Ser.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2007.4.30 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内山地の溪谷沿い水湿地、灌木下の適湿地に点在する。自生地が少なく、小型草本で環境変化の影響を受けやすい。

■**特徴**：ブナ帯域の沢沿い、灌木下の湿ったところにはえる小形の多年生草本。根出葉はロゼット状、卵円形で花時にも残る。花茎は高さ20 cm程度、茎葉は対生で、あっても1対。扇状で低鋸歯がある。花期は4-5月、黄緑色の花。花後、走出枝をだし先にロゼットをつくる。雄しべは8個。種子の稜は平滑。県内東部に生育するイワネコノメソウは花時に根出葉がなく、種子の稜に乳頭状突起がある。

■**分布** 県内：氷ノ山、大山。県外：北海道、本州（日本海側）。

■**保護上の留意点**：氷ノ山溪谷沿いの自然植生の保護。大山灌木帯の自然植生の保護。

■**特記事項**：分布西限

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ウラジロウツギ ユキノシタ科
Deutzia maximowicziana Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2005.6.1 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の山地にまれに分布し、自生地、個体数ともに少なく個体群の維持に懸念がある。

■**特徴**：内陸の常緑広葉樹林帯の崖地に生える落葉低木。分枝して高さ2 mほど。当年枝は紫褐色を帯びる。葉は対生、長卵形披針形-狭卵形で、不ぞろいな細鋸歯がある。表面に星状毛があり、下面に細かい星状毛が密生して灰白色となる。花期は5月。枝先に円錐花序を出し、白色の花をやや下向きに多数つける。谷間に多産するウツギは、裏面灰白色を帯びない。岩場で見られるヒメウツギは裏面脈上にのみ星状毛あり。本種の自生地域は近年シカの食害がひどく被害が懸念される。岡山県境での調査も必要。

■**分布** 県内：智頭町。県外：本州（中部以西）、四国。

■**保護上の留意点**：山地崖地の自然植生の保護。シカの食害対策。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

オオシラヒゲソウ ユキノシタ科

Parnassia foliosa Hook.f. et Thomson var. *japonica* (Nakai) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



智頭町 2008.9.16/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：自生地が山地溪流の不安定地に限られ、個体数も少ない。採取圧もあり絶滅が懸念されるが、絶滅寸前までの状況ではない。

■**特徴**：山地溪谷沿いの水が滴る岩場、滝周辺、常時水の供給がある斜面に生育する小型の多年生草本。茎は直立し高さ10–20 cm。葉は深心形で茎を抱き円頭、長さ幅とも4–6 cm。茎葉は3–4枚。根出葉は長柄がある。花期は8–9月、白色で径約3 cm。花弁は卵形で辺縁が毛状となり美しい。以前、氷ノ山の溪谷に大群落があったが、大雨で流失し今はわずか。県外山陽側にはシラヒゲソウがあるが、茎葉8枚と多く、花と葉はより小さい。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市国府町、八頭町、智頭町、三朝町。県外：本州日本海側。

■**保護上の留意点**：山地溪谷の岩場および周辺自然植生の保護。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54.

執筆：坂田成孝

ウメバチソウ ユキノシタ科

Parnassia palustris L. var. *palustris*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鏡ヶ成 2005.9.30/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内にはもともと生育に適した湿原、水湿地が少ないうえ、乾燥化など環境変化や採取圧により、個体数も減少ぎみである。

■**特徴**：山地の日当たりのよい湿原や湿潤地に生育する多年生草本。高さは10–40 cmになる。春先には根出葉があり、長柄があってロゼット状。夏に花茎を伸ばし、茎葉が1枚つく。葉は無柄で円心形、全縁で茎を抱く。8–10月、茎の頂に白色の五弁花をつける。白く太い雄しべとともに先端が糸状に裂開した仮雄ずいがあり、花弁とともにウメの花を連想させる。自生地である鏡ヶ成の湿原は乾燥化が進みつつあり、個体数も減りつつある。

■**分布** 県内：若桜町、鳥取市佐治町、江府町、伯耆町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地湿原の保護、保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：鷲見寛幸

バイカウツギ ユキノシタ科

Philadelphus satsumi Siebold ex Lindl. et Paxton

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2008.6.10/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内各地に点在するが、溪谷の岩場にのみ分布し、自生地と個体数が限られている。

■**特徴**：太平洋側の山地に多い落葉低木。茎は多数枝分かれして株状になる。葉は対生、5–10 mmの柄がある。広卵形–長楕円形、先は鋭尖形。縁に低い鋸歯があり、5主脈が目立つ。花期は5–6月、枝先に数個の花をつける。花弁4枚、径約3 cmで白色の花。花には芳香がある。生育地は山地溪谷周辺の岩場、崖状地にコガクウツギなどと混生する。庭木に使われることもある。

■**分布** 県内：鳥取市河原町・佐治町、若桜町、智頭町、三朝町、大山町、日南町。県外：本州（岩手県以南）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地溪谷の自然植生保護。採取防止。

■**文献**：—

執筆：西尾幸弘

ヤシャビシャク ユキノシタ科
Ribes ambiguum Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



氷ノ山 2004.8.8/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の自生確認地は比較的多いが、ブナ、ミズナラなどの老木に着生するため、よく発達した落葉樹林の減少にともなって減少済み。

■**特徴**：温帯林の老木上に生育する落葉小低木。幹上をはい、長さ50cm前後で直立または垂れ下がる。葉は互生で短枝の先に2-5個集まってつく。葉身は腎円形から五角状の円形で、基部は心形となり、縁には欠刻状の鋸歯がある。花期は4-5月。短枝に1-2個がつくが、淡緑色で目立たない。ブナ、ミズナラ等の老木の枝分かれした部位に着生することが多い。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町、若桜町、智頭町、八頭町、三朝町、倉吉市、琴浦町、大山町、江府町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地に残る自然林の保全。着生木と周囲の樹木保護。採取防止。

■**文献**：—

執筆：西尾幸弘

ザリコミ ユキノシタ科
Ribes maximowiczianum Kom.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2005.5.27(雄花)/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部の1地域にのみ自生する。希少で絶滅のおそれには残るが、個体群のはっきりした減少はみられていない。

■**特徴**：温帯上部から亜高山帯にかけて分布する落葉小低木。雌雄異株。幹は下部から多数分岐し、高さ1m内外。葉は長枝では互生、短枝では対生状となり、3-5裂の掌状。葉の両面と葉柄に腺毛がある。花期は5月。長枝の先端と短枝に長さ1-3cmの総状花序をつける。雄花、雌花とも黄緑色。果実は直径約5mmの卵形で、下垂し赤く熟す。県内ではブナ帯の溪谷や斜面地に生育する。被陰されない無立木地で優勢で、斜面地ではコヨウラクツツジやワチガイソウ、タチカメバソウを混じえる。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（宮城県以南に点在）、四国（高知県）。

■**保護上の留意点**：自生地における被陰木の管理。

■**文献**：—

執筆：西尾幸弘

オニシモツケ バラ科
Filipendula kamtschatica (Pall.) Maxim

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市佐治町 2010.6.27/撮影：松本 綾

■**選定理由**：もともと限られた地域にのみ自生するが、森林の荒廃などにより希少性が高まってきている。

■**特徴**：県内のなかでも多雪冷涼なブナ帯域の沢沿いに生育する大形の多年生草本。沢沿いの日当たりのよい斜面で群生し、日陰部ではヤグルマソウなどと混生することが多い。根茎は太く、茎は高さ1-2mになり稜角がある。葉は互生し、頂小葉だけが極端に大きい奇数羽状複葉。頂小葉は掌状で5-7中裂、裂片は鋭突頭。側小葉は数対あるが微小。托葉が茎を抱き目立つ。花期は6-7月。茎頂に散房花序を出し、白色-微帯紅白色の花を密生する。和名はシモツケソウに似て大形を表す。

■**分布** 県内：若桜町、八頭町、鳥取市佐治町、三朝町、日南町。県外：北海道、本州（中部以北に多い）。サハリン、千島、カムチャッカ。

■**保護上の留意点**：山地谷沿い斜面等、自生地の植生保全。

■**文献**：—

執筆：松本 綾

ノウゴウイチゴ バラ科

Fragaria iinumae Makino

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



大山町 2010.5.18/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：本州中部以北の山地に分布し、大山にわずかに隔離分布する。自生地の草原化あるいは崩壊土砂による埋没などで減少している。

■**特徴**：亜高山–高山の草地に生育する多年生草本。高さ10–15 cmで、匍匐枝は長く地面をはう。葉は緑白色で根生し長柄の3出複葉。花期は5–6月。花弁は7–8枚で白色、径2 cmほど。そう果は円錐形で赤熟し、食用となる。県内では大山主峰の砂礫地にわずかに生育するのみ。過去に確認された生育地点は、草原化あるいは崩壊土砂による埋没により消滅、減少したところが多い。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道，本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：登山者による踏みつけ防止と採取禁止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54。

執筆：矢田貝繁明

カラフトダイコンソウ バラ科

Geum macrophyllum Willd. var. *sachalinense* (Koidz.) H.Hara

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



東山 2007.6.16/撮影：永松 大

■**選定理由**：北方に分布の中心があり、分布南西限。県内では東部のブナ林内1カ所で自生確認。個体数はごくわずかで絶滅のおそれが非常に高い。

■**特徴**：山地の谷間に生育する北方系の多年生草本。県内では若桜町東山で、標高1000 m以上のブナ林縁にわずかに生育する。高さ80 cm。全体に黄色を帯びた開出剛毛が密生、小花柄に粗い長毛がある。根出葉は羽状複葉。側小葉は小型、1–2対。頂小葉は円形、不ぞろいの歯芽縁。茎葉は3裂単葉。托葉は披針形。花期は6月、黄色。谷間にふつうに見られるダイコンソウは小花柄に粗毛がなく、托葉は卵形、葉は鈍鋸歯縁。この地域はシカの食害がひどく影響が心配される。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道，本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：山地谷間の自然植生保護。シカの食害対策。

■**文献**：98。

執筆：坂田成孝

リンボク バラ科

Laurocerasus spinulosa (Siebold et Zucc.) C.K.Schneid.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市用瀬町 2007.4.7/撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では低山の常緑樹林内に孤立的に少数が自生するのみ。

■**特徴**：暖地の谷間など湿り気が多い場所に生育する常緑小高木。葉は互生し、長楕円形、先は尾状に尖り、縁は波うつ。老木の葉は全縁だが、若木の葉には鋭い鋸歯がある。花期は9月。葉腋に穂状の花序を出し、白色の小花を多数つける。この時期に開花する樹木はほとんどないので、この花は目立つ。

■**分布** 県内：鳥取市用瀬町，八頭町，三朝町，倉吉市，南部町。県外：本州（関東，福井県以西），四国，九州，沖縄。

■**保護上の留意点**：道路整備による伐採防止。周囲の環境改変防止。

■**文献**：—

執筆：西尾幸弘

ズミ バラ科*Malus toringo* (Siebold) Siebold ex de Vriese

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日野町 2010.5.11 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での自生地は、現在のところ西部の水湿地に限定されている。自生地の環境変化、周囲の植生変化により減少傾向にある。

■**特徴**：日当たりのよい山地の林縁や湿地に生育する落葉小高木。短枝はしばしば刺状になる。葉は互生し長楕円形で5-8 cm、全縁のもの先端が3-5に切れ込むものが混じる。花は5月中旬で、白色-淡紅色の5弁花をつける。果実は直径6-10 mmで10月ごろ赤く熟す。果実が黄色く熟すキミズミも生育している。

■**分布** 県内：南部町，日野町，日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：湿原周辺の高木による被圧防止。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

オオウラジロノキ バラ科*Malus tschonoskii* (Maxim.) C.K.Schneid.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2004.8.7 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内各地の山地自然林中にまれ、孤立、点在する。自生地と個体数の見積もりは難しいが、状況の好転は認められていない。

■**特徴**：自然林中のやや乾燥した尾根を中心に点在する落葉高木。新枝は黄緑色で綿毛を持つが、成長すると紫褐色で無毛となる。花期は5月、枝先に径3 cmの大型の白花を数個つける。花弁は楕円形で先端は丸い。秋、球形で径2 cmほどのナシ状果をつけ、食べられる。幹には刺状の突起が生じる。別名オオズミ。樹皮が黄色染料の原料となり、伐採されることがある。

■**分布** 県内：点在。丘陵地の照葉樹林から落葉樹林帯下部。県外：本州，四国，九州（九重山）。

■**保護上の留意点**：自然植生の保全管理。伐採防止。

■**文献**：—

執筆：森本満喜夫

イヌザクラ バラ科*Padus buergeriana* (Miq.) T.T.Yüet T.C.Kudô

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：磯江茂秋

■**選定理由**：県内の二次林に点在する。林道沿いなど日当たりのよい林縁で確認例が多いが、維持管理不足により減少がみ。

■**特徴**：山間地のやや湿り気のある林縁に孤立して生育する落葉高木。樹皮は灰褐色でやや光沢があり、若枝は緑色。花期は5月、葉の展開後に咲く。前年枝から総状花序を出し、白色の花を多数開く。花序は長さ6-9 cmほど。花序枝には葉はつせず、花序枝に葉をつける近縁のウワミズザクラとの区別点となる。

■**分布** 県内：鳥取市・河原町・鹿野町，三朝町，倉吉市，琴浦町，南部町，江府町，日野町，日南町。県外：本州，四国，九州。朝鮮（済州島）。

■**保護上の留意点**：地域住民への啓発，山地二次林の維持管理。

■**文献**：—

執筆：伊澤寛治

カワラサイコ バラ科

Potentilla chinensis Ser.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



境港市 2010.6.26/撮影：藤原文子

■**選定理由**：自生地が限られ、個体数も少ない。境港市の自生地では個体数が減少している。

■**特徴**：日当たりのよい河原や海岸砂礫地に生育する多年生草本。やや肥大した直根をもつ。茎は高さ30–70 cmに達し、長毛を密生する。葉は互生し、15–29個の小葉をもつ奇数羽状複葉。小葉は深く裂け、裏面に綿毛が密生する。小葉の間には付属小葉片と呼ばれる小裂片がある。花期は6–7月、直径1–1.5 cmの黄色い5弁花を茎上部に多数つける。若い果実は萼片に包まれているが、熟すと開く。和名は、根がミヤマサイコに似ることから。自生地のひとつではチガヤが繁茂し、本種の生育が脅かされている。

■**分布** 県内：境港市、米子市。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：海岸砂地や河原の保全管理。チガヤ等の除去。増水などによる河原のかく乱も重要。

■**文献**：—

執筆者：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

ミツモトソウ バラ科

Potentilla cryptotaeniae Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2010.7.19/撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：山地溪谷の環境変化による減少がみられる。県内東部のシカ食害のある地域では、自生が確認できなくなった。

■**特徴**：溪谷沿い草地や林床に生育する多年生草本。茎には開出毛が密生、はって斜上し、高さ30–60 cmになる。根出葉は夏期には枯れる。葉は互生し、茎の下部では長柄があるが上部では短柄か無柄。葉は3出複葉で、小葉は狭卵形、長さ3–5 cm。重鋸歯縁で両面に伏毛が生える。葉柄基部には披針形の托葉がある。花期は8–9月、茎の先端に集散花序をつける。花は径1 cmほどの黄色い5弁花。和名は「みなもと」（水源）が変化したとされる。日南町の溪谷では、豪雨後の小規模な土石流で自生地が流出した。

■**分布** 県内：日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の道路管理で本種が除草されることがある。関係者への周知徹底が必要。

■**文献**：—

執筆者：浜田幸夫（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

イワキンバイ バラ科

Potentilla dickinsii Franch. et Sav.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2010.7.23/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では、不安定な岩場など限られた場所にのみ生育し、環境変化や採取により個体数が減少しつつある。

■**特徴**：山地の岩場に生育する多年生草本。茎は高さ10–20 cm、長柄があり葉は3出複葉。夏、茎頂に集散花序の黄色い花をつける。花弁は5枚。漢名は岩金梅。イワキンバイの生育している岩場は、長年の風雨で表面に付着している草本とともに崩れ落ちることが多く、個体群が安定しない。また、かわいらしい花を目的にした山野草愛好家の採取も、個体数減少の一因となっている。

■**分布** 県内：若桜町、琴浦町、大山町。那岐山は初版以降は未確認。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地岩場の植生保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆者：鷲見寛幸